

銀漢亭日録



伊藤伊那男

5月15日(水)

▼村田脩先生の御長女、角さん幹事で谷川佐和子さん、村田重子さん他「睦会」の方々十二名。高校同期の「三水会」九人。中島凌雲君、大阪から出張で。

16日(木)

▼清人さん「鮪の会」十人。伊勢神宮河合宮司、宮澤、小学館の編集者と。公認会計士の藤井さん、宮内さん。と。「銀漢句会」のあと十二人。「読む会」は常連に加え筑紫磐井、岩淵喜代子さん。客の高部務さん、月刊「小説宝石」に連載開始。「新宿物語1968」1972と。

17日(金)

▼中根さん午前中、家の掃除に入る。「俳句aあるふあ」「日刊ゲンダイ」の記事など親戚他へ送る。発行所「野村句会」、あと五人店。全体閑散。帰路、人身事故で京王線停滞。

18日(土)

▼兄の次男、俊輔君、結婚式。デイズニースーの「ホテルミラコスタ」。十時過ぎ集合、挙式。十二時、披露宴。ミッキーマウス他、縫い包みが踊り回る、駆け回る。あと兄の部屋で飲み直し。《聖五月華燭を囁す椰子の風》。あと渋谷「福ちゃん」に寄って帰宅。へろへろ。

19日(日)

▼九時、整体。効く。選句その他。十七時、目黒に杏一家と待合せ、「海鮮酒場」。家の相談を受ける。

21日(火)

▼予約なく寂しい！竹内宗一郎、徳永和美さん。洋酔

31日(金)

不満の声も。あと全員で席題句会。

▼家、掃除に入ってもらう。快晴。店、毎日新聞、鈴木琢磨さん。あつ、今日TBS「ひるおび！」に北朝鮮問題のコメンテーターで出演していたよね。環順子さん二人。玲奈、十月出産の予定と。おめでとー！敦子、厚子、村上鞆彦さんへロヘロで登場。全体閑散、ああ……。

6月2日(日)

▼整体予約していたのに行くのを忘れる。先生、ゴメン。「春耕同人句会」。十七時、新宿「鼎」、坪井、湖童、洋征さんに招かれる。当方、禪次、大和さん、親睦会。馳走になる。相当飲んだと思うのだが、帰路、地元のラーメン店二軒を梯子してしまう。ああ、やってしまった……。

3日(月)

▼発行所「かさ、ぎ俳句勉強会」。高柳重信と。終って十一人店。国会議員のT氏、「俳句aあるふあ」を見ていた感動したと訪ねてくれる。

5日(水)

▼発行所「ささらぎ句会」あと七人。ひまわり館「宙句会」あと八人。志峯ずつと。真砂年さん、麒麟夫妻。柴山つぐ子さんより嬌恋の野びる、芹など到来。仲間大喜び。「月の匣」の執行香さんより房州の枇杷。

7日(金)

▼「大倉句会」十二人。清人さん鮪捌く。志峯三人。朝比古二人。妻の京女時代の友、浦井満里子さん夫妻、「港」の小太郎さん、などなど。終電、つつけ丘まで乗越し。ちよつと来すぎたな、やれやれ……。

8日(土)

▼十時、運営委員会。十三時より「本部句会」五十人。

24日(金)

25日(土)

▼六月号発送。広渡敬雄さん四人。「金星句会」七人。▼「纏句会」少なく、十一人。あとカウスターにて席題「鯉の叩き」「鮎の風干し」握り。あと武田編集長とレストラン「イタリヤ」にて打合せ。ピザなどで赤ワイン一本。帰路、地元の焼き鳥屋。食べ過ぎ。

27日(月)

▼「第六十五回 湯島句会」。出句百一人。出席三十三人。あと一回で終了する超結社句会。終る頃、皆川文弘さん来店。一緒に飲む。

28日(火)

▼ひまわり館の「銀漢萩句会」選句に。関西から末永理恵子、清水佳壽美さんが顔合せに上京。いろいろ土産をいただく。句会後、銀漢亭でお二人を囲んで懇親会。対馬康子さん久々。国会議員のT氏も久々、「銀漢」六月号を買ってくださる。毎回楽しそうに読んでいると。袖口満さんが今年も青山椒を大量に持ってきて下さる。

29日(水)

▼早々と梅雨入り。店「雛句会」十人。真一さんがサクソフォン奏者でバリ在住の仲野麻紀さん（「湯島句会」会員）と。

30日(木)

▼「銀漢」七月号原稿全部終了。店、「梅干・梅若對抗俳句合戦」、若手と老練七名ずつが兼題句を出し、投票で勝ち負けを決めるもの。大いに盛り上がり、結果は梅若組の勝ち。但し梅若に老練な年配者も交っていたとて

さん退院後、初めての来店、ウイスキー一杯のみ供す。鈴木淳子さん引越にあたり出てきたと、包丁四本くれる。「父が嫁入り道具に用意してくれたのに、ああ……」と。

24日(金)

25日(土)

▼六月号発送。広渡敬雄さん四人。「金星句会」七人。▼「纏句会」少なく、十一人。あとカウスターにて席題「鯉の叩き」「鮎の風干し」握り。あと武田編集長とレストラン「イタリヤ」にて打合せ。ピザなどで赤ワイン一本。帰路、地元の焼き鳥屋。食べ過ぎ。

27日(月)

▼「第六十五回 湯島句会」。出句百一人。出席三十三人。あと一回で終了する超結社句会。終る頃、皆川文弘さん来店。一緒に飲む。

28日(火)

▼ひまわり館の「銀漢萩句会」選句に。関西から末永理恵子、清水佳壽美さんが顔合せに上京。いろいろ土産をいただく。句会後、銀漢亭でお二人を囲んで懇親会。対馬康子さん久々。国会議員のT氏も久々、「銀漢」六月号を買ってくださる。毎回楽しそうに読んでいると。袖口満さんが今年も青山椒を大量に持ってきて下さる。

29日(水)

▼早々と梅雨入り。店「雛句会」十人。真一さんがサクソフォン奏者でバリ在住の仲野麻紀さん（「湯島句会」会員）と。

30日(木)

▼「銀漢」七月号原稿全部終了。店、「梅干・梅若對抗俳句合戦」、若手と老練七名ずつが兼題句を出し、投票で勝ち負けを決めるもの。大いに盛り上がり、結果は梅若組の勝ち。但し梅若に老練な年配者も交っていたとて

31日(金)

ステーキ丼の昼食あとにて選句眠い。十六時迄で先に退席、ごめんなさい。十七時、中野サンプラザ・コスモルームにて松村多美主宰「四葩」創刊二十周年記念祝賀会。あと水内慶太、加茂一行、藤田直子、木暮陶句郎、鈴木節子さんと居酒屋。

9日(日)

▼九時、整体。散髪など。「平成俳壇」選句、選評。午後、成城、桃子の家。宮澤が先週行った気仙沼の魚。武田氏からの山菜など。私の老後の住居の話など。

10日(月)

▼大西真一、松川洋酔、鈴木淳子さんの誕生会で貸切。大西君本人が幹事。四十数人集まる。終電、寝過して仙川……やれやれ。

11日(火)

▼「湯島句会」の投句締切を一日遅れと思い秋葉男さんに送ると、「一週間早い投句で」と。発行所、最終校正。池田のりをさん、安藤さんと。氏は伊那北高校へ慶大の三年先輩。三和銀行の常務になった方。「火の会」八人、欠席投句二人。

13日(木)

▼柴山つぐ子さんの「北軽井沢句会」が鎌倉吟行。武田編集長、花果さん等が同行して十六時から、発行所にて句会。あと十一名の方が店で親睦会。色々、お土産をいただく。新幹線に乗る時間まで歓談。真砂年、麒麟夫妻など。「俳句aあるふあ」の赤田記者から「俳句が生まれる現場」の鎌倉吟行記、好評であったと。読者からの感想文のコピー五人分送ってくれる。